



世界に希望を生み出そう

Rotary International District 2800

# 山形西ロータリークラブ会報

会長：長澤 裕二 幹事：三沢 大介

地区目標 ロータリーを語ろう そして ロータリーを楽しもう

クラブテーマ 新会員を育てながら、ロータリーを楽しもう

- ◆点鐘：長澤 裕二 会長
- ◆ロータリーソング：四つのテスト
- ◆司会：平田 智則 S.A.A.
- ◆会場：山形グランドホテル



第2989回例会

令和5年8月21日(月)

## 会長あいさつ

長澤 裕二 会長



8月19日に鳥海山に登りました。今回は秋田の矢島口コースから南、湯ノ台のコースとって、北から南に縦断する形で登って下りました。鳥海山は4回目なんですけど、そのコースは初めてで、朝5時に山形を出まして、8時過ぎに登山口に到着して、登りが大体6時間くらい登って、途中昼食をしながら実質登っている時間が6時間くらいですね。下りが5時間くらいかかりましたね。午後7時くらいにようやく、南の登山口に到着して、11時間、へろへろになりながらやってきました。山形市民登山愛好会という登山サークルが、50人くらいの会員がいるんですけど、実際参加したのは15人くらいで、本当に70歳過ぎるときついなと思いました。

登山サークルに入ったのは還暦を迎える時で、山形を見渡したら山形って山だらけなんですね。北は月山とか羽黒山、葉山、西は白鷹山、南は瀧山、雁戸山、山形神室岳、面白山、あと南蔵王とか。一面周りが山だらけなのに、全然登っていないことに気づいたんです。土日忙しい仕事をやっていたものですから、登山をする機会がなくて、70になったらもう登れないと。60のうちに登らないと、というので、60歳の時に1人で最初は登山を始めました。月山とか、案内人がなくても行けるんでね、瀧山とか、雁戸とか。そのあと登山の会に入れてもらって、信州のほうの山も登っています。

信州の山に登った時には、足がつって登れなくなって、でも置いていかないんです。荷物はおぶってあげるからついてきてくださいという感じでずっと連れて行かれて。それで次の週から毎朝千歳山に登れと。私はその当時霞城公園を3周4周散歩してたんですけど、そんなんじゃダメだと、とにかく山に登れと。それで千歳山に毎朝登るようになりまして、それから10年になりますけど、年間150回くらい、10年で1500回くらい登っています。10年もなんで長続きするか。あまり真面目にやろうとしないこと。今日は疲れた。昨日も実は休みました。鳥海山に登ったら疲れて、1日寝てました。朝も起きられないし、今日も勝手に休みます。次の日元気になったので、また登ります。今日は1538回目です。というように毎日記録を取りながら登っています。

千歳山には80代の後半、もう90歳近い人たちがいっぱいいます。その人たちは毎日来ています。私は毎日なかなか行けないので、なるべく週3回くらいは行くようにしてますけど、あんまり義務感を感じないで楽しく登ればということをやっています。あと10年、なんとか3000回まで登りたいなと思っています。

## 幹事報告

三沢 大介 幹事

- 山形国際ドキュメンタリー映画祭2023の開催の案内が来ております。皆さんのテーブルにチラシを置かせていただきました。4年ぶりとなる会場開催ということで、ご興味のある方はぜひご確認いただければと思います。

## 委員会報告

写楽クラブ

結城 和生 さん

写楽クラブは2005年くらいから立ち上げてやってきましたけれども、コロナで休んでおりましたし、出かけられなかったということもありましたので知らない方もいるかもしれません。小松さんが会長になっており、会計に小林さんと、準備段階を3人でやってきておりましたが、若い方になかなか参加していただけないということもあり、このまま終了宣言をしようかということをお小松さんと話になりました。ただ、何もやらないで終わるのももったいない感じがしましたので、今回、「カクテルのゆうべ」という会をパレスグランドでやることになりました。その案内をファクスあるいはメールで事務局から送りますので、ぜひ多くの参加をしていただきたいと思います。

写楽クラブは当時ネパールに行った方でカメラの好きな人が写真を楽しむ会をやろうということで「写楽」というような名前をつけたわけですが、県内あちこちの景勝地を訪ねたり、あるいはご当地のグルメを楽しんだりというようなことを続けてきました。それをやるに当たってカメラの撮り方、扱い方の講義を受けたり、慈恩寺に行く時には慈恩寺のお話を山大的先生から講義をいただいたり、あるいはワインを楽しむ会をやったりと、いろいろなことをやってきたわけですが、なかなか企画をたてるのも疲れてしまったというようなこともありますので、若い方々にもぜひ同じような会をやっていただければもっと親睦が深まるかなと思ひまして、私たちの役割はここで終わろうということになりました。9月6日にパレスグランドでカクテルの会をしますが、作ってもらって飲む、だけではなく自分で作って自分で飲むという感じで、作り方を教わるというような会をしたいなと思っておりますので、ぜひご参加ください。よろしくお祈りします。



共に創ろう!山形の未来

井上 貴至 さん

〔山形市副市長〕

今日は簡単に自己紹介と、本当に今山形市のことでお伝えしたいことがたくさんあるんですけども、ちょっと絞ってお話できたらなと思っております。

私は大阪出身で「大阪の企業がどんどん東京に行っちゃうな」と小学生、中学生くらいから問題意識がございました。地域づくり、まちづくり、地方行政に小学生、中学生くらいから関心があり、大学に入った時に「君らは何も知らない」と、「とにかく現場に行きなさい」という先生がいらっちゃって、沖縄の防空壕に行ったり米軍基地に行ったり、アジアの実習生と一緒に農業したり、そういう中で総務省というのは霞ヶ関だけじゃなくて市町村とか都道府県に行く機会も多いですから、現場のことを考えて、またそれを制度に活かして、その制度の改正したこともちゃんと現場でやっていくということがいいなと思って総務省に入りました。

ちょうど2008年に入り、2011年に東日本大震災があって、もう居ても立っても居られなくなって、毎週末友人たちと宮城県石巻の雄勝にずっと足を運んでいました。雄勝は伊達政宗公から続く硯石の産地で、ところが石を削る機械が全部流されて。なんとかしないといけないということで、最初は残ったものを東京の学園祭で売って寄付するとかしていたんですけども、私柔道をするので、総務省も今郵便局と一緒に、郵便局の幹部と柔道をしています。「井上君よく被災地に行っているんだね」と。「郵便局で何か寄付をしたいんだけど、どこかいところないか」と言われて「それなら石巻の雄勝の硯石を復活させて、郵便局がお手紙の文化、文(ふみ)の文化を復活させましょう」と申し上げたら、ちょうど2011年5月に3000万円の寄付をいただいて、今も職人さんが住み慣れたところで好きな仕事を続けています。

そういう中で私もやっぱり官と民をつなげたりとか、中と外をつなげる役割というのはすごく大事だなと思いましたが、被災地だったりとか行きたいと手を挙げたんですけども、なかなかまだ当時入省3年目、4年目でしたから、まだちょっと若いなということで行かせてもらえませんでしたけれども、ちょうど地方創生という時に全国訪ね歩いていると、「なんか内閣府総務省に毎週末自費で全国訪ね歩いている変なやつがいるぞ」ということで、当時の石破大臣、小泉政務官に呼ばれて、それで地方創生と一緒に視察先を考えたり、「何が一番大事だ」と言われましたので「それはやっぱり中と外をつなぐ人材を小さな市町村こそ派遣しましょう」ということで、地方創生人材支援制度を立ち上げて、第1号で鹿児島県長島町という世界のブリ養殖の町に行かせてもらいました。そこでも官と民が力を合わせて、地域超密着の取り組みということで、信用金庫さんと一緒に地元に戻れば返済補填するぶり奨学金を作って、今度西川町もそれを参考に帰ってきてけローン、旅行業でいうと阪急交通社と組んで、ほんとに地域超密着のツアーだということで、魚美味しいものもあるんですけども、例えば漁師さんしか知らない食べ方があるわけですね、そ

れを出したりとか、旅行会社にアドバイスいただいて「魚美味しいけどちょっとデザート付け加えてくださいね」とか「お手洗いもっときれいにしてくださいね」とか「魚出すときひとこと言ってくださいね」ということを、いろんなアドバイスをいただいて、気が付けば阪急さんのお食事満足度が日本一になりました。長島町ですね。今も実は阪急さんから人を派遣していただいて、山形市の移住政策もやっています。オーダーメイド型移住ツアーということで、子育て世帯だったらコバルとか学校とか、あるいは就職希望先とか、1泊2日とか2泊3日でツアーを作ると。これはやっぱり旅行会社の方はツアー作るのが得意ですし、案内するのも得意ですし、何よりこれ、なかなか市役所職員だけじゃできないのは、阪急の方がやると「実は、私は市役所の職員じゃなくて、私も移住者なんです」と。「去年山形に来てこうやって案内していますよ」と言うと、移住希望者の方がすごく納得されて、去年から始めて実はもう30組以上の方が山形市に移住を始めています。ある人は街なかのマンションに住んでテレワークしている人もいれば、ある人は郊外の古民家を借りてもう自分で農業を始めた方もいらっちゃいますし、いろんな方が移住をしています。

そんな鹿児島だったり、そのあと愛媛に行って西日本豪雨の復興もあったんですけども、「小さな町で思いっきりやらせてもらったので、次は県庁所在地でやりたいな」ということをずっと人事に希望を申し上げていると、おとしその希望をかなえてもらって、山形市の副市長を拝命した次第でございます。

柔道が私大好きで、今も山形南高校で非常勤コーチをやらせてもらっています。今日は子育てとか教育とか経済とか農業とか観光、山形市もすごく今、力を入れていることたくさんあって、いろんなお話をしたいんですけど、2つに絞って話をしようと思います。

実は1つだけ自慢をすると、今人口減少時代にあって、都市経営の目標って究極的には2つじゃないかなと思います。1つは子どもの数を増やすこと、もう1つは緩やかに地価を上げていくこと。経済面ですね。この47都道府県ある中で子どもの数が増えて、緩やかに地価が上がって、両方とも去年達成したのは実は山形だけなんです。ほかのところは子どもの数が減ったり、地価が下がって、ほとんどの地方都市は地価が下がっています。だけど山形は本当に官民力を合わせて、緩やかに今地価も上がっていますし、去年に関して言うと、本当に数年ぶりに子どもの数も、5人だけですけど増えました。やっぱりこれも本当に皆さんの力かなと思っております。

話は変わりまして、最近ESG投資というのがよく言われるようになりました。環境(Environment)と社会(Social)とガバナンス(Governance)だと。結構アメリカなりヨーロッパの投資家というのは、もうESGに反する企業に対してはお金を出資しないとかということで、すぐレターを送っています。例えば日本の保険会社とか金融機関に対して「おたくはこのESGに反しているところと付き合ってるのか」ということで、レターをいっぱい送っています。石炭とかやっていると、「おたくはEに反するじゃないか」とかね、すぐ来ます。そういう中で、実はこのEに関して、環境に関しては今いろんな議論があるんですけども、サプライチェーンの排出量、CO2、地球温暖化対策、気候変動、やっぱりこれが世界の中の1つの求められることになってきています。大体皆さんもサプライチェーンという自社でのCO2の排出量とか、自分の製品を使った時、廃棄する時のCO2の排出量というのは意識

しているんですけど、最近はこの上流部門、原材料だったり、輸送、通勤といったことのCO2の排出量も考えないとおそらくいけないのではないかなと。そうすると、たぶんトヨタ自動車とお付き合いしようとする、自社の製品だけじゃなくてこの上流部門のところも意識をしないとだんだんその付き合いが難しくなってくるんじゃないかなというのが今のトレンドかなと思っています。

だから輸送・配送で言うと、やっぱりいかに域内で、山形の経済圏の中でちゃんと循環していくかということですし、通勤も、山形はいいところなんですけど、ちょっと残念なのは自家用車の比率が県庁所在地の中で水戸と山形が飛び抜けて高いんですね。そこを意識しないしていると、本当にいろんな大手の企業さんからお付き合いをされなくなるんじゃないかなと今非常に危惧しています。

そういう中で山形市も今公共交通にすごく力を入れてまして、公共交通にはいろんなメリットがあります。家計にやさしかったり、健康にやさしかったり、地球にも地域にもやさしいし、中心市街地にもやさしいんです。

実はこのCO2排出量も、環境省が出しているデータで、山形市というのは水戸と並んで一番自家用車からのCO2排出量が高いと。これはちょっとまずいかなと思っています。経済面でも、実は車を1台持つと年間、これは国交省の推計で73万円くらいですけども、多分ガソリン値が上がってくるともっともって費用がかかってきます。これは家計に置き換えると、公共交通をうまく使っていくと多分年間数十万円は削減ができる可能性もありますし、地域の経済でも、大体山形市のGDPは年間1兆円くらい、そのうちの15%が毎年外に出ちゃうと。これはやっぱり5%でも10%でも地域の中で循環していくということが地域経済にとってすごく大事なかなと思っています。

実は、山形駅やバスターミナル、そういった交通結節点を作っていくと、デジタルで「らくのる」で、やまがたMa a S (マース)を作ったり、ちょうど今「南くるりん」も実証実験中でございますけれども、コミュニティバスも本当に地域の皆さまと調整をしながら少しずつ膨らませてるところでございます。

JRも本当に首都圏だけじゃなくて、静岡、長野、新潟から青森まですごく幅広いエリアですから、山形も優先順位を高めてもらって山形に投資をしてもらおうということで、いろんな角度から対話を重ねております。新駅もそうですし、漆山駅も東口をちゃんと付けようとか、蔵王駅もちゃんと西口を付けてもっともって電車で乗りやすくしようということを今進めています。国交省とも先週も打ち合わせをしましたけど、雪国ですから、バス待ち環境をしっかり整備しようとかも進めているところです。

でも大事なことは、「便が増えれば使います」と皆さん言うんですけど、まず使ってみないと、なかなか便も増えないかなと思っています。免許を返納したおじいちゃん、おばあちゃんだけで公共交通を維持することって困難なので、毎日公共交通を使うだけでおじいちゃんおばあちゃん孝行ですし、1人1台から1家に1台になったり、徒歩とか自転車とかうまく組み合わせていくといいかなと思っています。これは別にゼロか100かじゃないので、例えばミクロン精密さんとお話をしていると、グリーンフライデーというのがあって、これは違う部署同士でも近くの家の人々が相乗りして会社に来ましよう。そうするとCO2も削減されますし、何より違う部署同士の人々が話をし、年齢とか部署を超えてコミュニケーションしやすくなる、いろんなやり方があるかなと思っています。

うちもノーマイカー・フレックスタイムということで、

バスに乗りたいたけどバスの時間が合わないんだというなら、実は15分とか30分あとに来てもらって、仕事の時間も15分、30分ずらしめると、そんなこともやっています。やっぱりこれから夫婦で育児をしていく中でとても大事なかなと思いますし、介護だったりいろんな事情があると思います。小さなお子さんを朝は送っていくけど、夕方はちょっと遅くまで働くとか、逆に朝は早く働けど夕方は子どものお迎えに行くとか、家族の中で役割分担を敷く時にもいろんな働き方があればいいかなと思っています。

あと、コミュニティサイクルにも最近力を入れてまして、街なかには180台置いてあります。こんどは280台に今年中に増やしてやっていこうと思っています。

実はこんな寄付も募集してまして、コミュニティサイクルの横に企業さんの名前とかを入れて走ると、街なかをみんな走っていきますからすごく宣伝になりますし、何より環境にやさしい企業だなということになるかなと思いますので、寄付も広告も募集してございます。とにかく難しい話じゃなくて、ちょっと相乗りしたり、時差通勤したりということでもみんな使っていくということがすごく大事なかなと思っています。

もう1つが、やっぱり幸福学、働きやすさです。心も体も健康で社会的にも満たされた状態だと、やっぱり良いパフォーマンスも発揮しやすくなって仕事の生産性や創造性も向上すると。これもいろんな研究データが出ています。この間パレスグランデールの60周年の時に、前野先生と清山先生が言っていましたけれども、4つだと。「ありがとう」「やってみよう」「なんとかなる」「自分らしく」。私はこの中でも「やってみよう」というのが実はすごく大事なかなと思っています。

これは男女のジェンダーギャップ、146カ国中日本は125位と、モルディブよりも下だと。女性の参画が少ないなということもあって、もっと20代とか30代の人もみんな巻き込んでやったほうがいいんじゃないかなというのはちょっと寂しく思いました。

それで別に手段だけじゃなくて、ダイバーシティをすることの目的だけじゃなくて1つの手段として、実はいろんな統計でジェンダーにちゃんと配慮した企業とか、外国人に配慮した企業というのは業績がぐんと伸びています。そこは結構関係があって、同じ業種の中でもジェンダーとか外国人に配慮した企業というのは伸びています。一方で山形のほうはまだまだ女性管理職の割合が低かったりとかして、特に20代の流出の数はすごく多いかなと思っています。特に女性の数が、比較的外に出ちゃっていますね。女性からすると、山形の企業で働いてもなんか活躍できないんじゃないかなとか、子育てと両立できないんじゃないかなと思ってる人がいるというのが、やっぱりまだまだ多いということが実情かなと思っています。

そういった中で今年は実は「働きやすさ追求室」を作っていて、皆さんと一緒に女性活躍とか男性育休とか、企業版DXとかを今進めている段階です。今年は去年に続いて資生堂さんからノウハウとかお金をいただいて女性活躍の取り組みをしていまして、いろんな企業さんから参加してもらっています。こうしたらもっと自分たちも働きやすくなるかなとか、こうすればもっと良くなるかなということをどんどん提案いただいていますので、それも発表会を来年1月にしますから、皆さんと共有しながら、地域全体でそういった若者も女性も働きやすくすることが大事なかなと思っています。

山形市役所も実は佐藤市長になってから、男性育休にすごく力を入れてます。毎月1回子どもが生まれた職員と

## ニコニコBOX

〈8月21日〉

### 長澤裕二会長／井上副市長をお迎えして

私にとっては山響のチェリスト、久良木さんの旦那さんをお迎えしました。なるべく長く山形で生活を楽しんでください。

### 佐藤充昭さん／山形市副市長井上貴至さんをお迎えして

本日の卓話楽しみにしています。

### 坂部登さん／井上副市長をお招きして

結婚おめでとうございます。若さで市政をガンガン前に進めてください。勤労者福祉サービスセンターのPRもよろしく。

### 富田浩志さん／井上副市長をお迎えして

お忙しい中ありがとうございます。山形を一層発展するようご尽力ください。共に頑張りましょう。

### 酒巻雅樹さん／串カツ田中山形駅前店開店

かねてから計画しておりました串カツ田中山形駅前店を8月17日に開店いたしました。連日多くのお客さまにご来店いただき、大変嬉しく思っております。当面混み合うかと思いますが、落ち着きましたらぜひご来店ください。まずは順調なスタートが切れたことにニコニコいたします。

**安部弘行さん**／遠藤靖彦くんに続き、先週の『提言の広場』に出させていただきます。皆さん、見てくれましたか？

先週金曜、長男に第1子内孫が生まれました。ニコニコします。

### 角田健さん／鳥海山初登頂

8月10日、一緒に仕事をする長男と鳥海山に挑戦。約2年前に独立起業の際決意して月山に登って以来の登山でした。快晴に恵まれ、素晴らしい日本海も眺めながらたくさんの山ボーイ、山ガールと挨拶を交わし、同じ目標を持つ人に力をもらいながら頂上を目指し、大物忌神社のいる前に着くと、そこから崖をよじ登りながら新山までの道、普段体力づくりをしていない息子はさすがに疲れたらしく、頭も朦朧として携帯電話を落としてしまう始末でした。私は毎週走っているおかげでとても清々しい登山でした。翌日はプライベートゴルフで山辺で101のベストスコア、100を切るまでもう少し。疲れたほうが力が入らなくていいみたいでした。天に近づてパワーを頂いた1日に、感謝です。ニコニコします。

### 原田久雄さん／御礼

シクシクさせていただきます。先日の父の葬場祭におかれまして、本会ならびに会員の皆さまには過分なご厚誼を賜り、誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。今後とも変わらぬお付き合いのほどよろしくお願いいたします。

### 渡辺隆博さん／8月12日、義理の母が亡くなりました。

8月19日、葬儀も無事終えることができましたので、シクシクします。

●皆さまにご連絡がございました。ニコニコのフォームというものを今年から作らせていただいております。例会の1週間くらい前に皆さまに簡単に入力できるようなフォームを送らせていただきます。当日会場で書いていただいても一向にかまいません。気付いた時に入力いただければ届くようになっておりますので、よろしくお願いいたします。

その上司に当たる課長を呼んで「男性育休、大事だよ」という話をしていると、去年は佐藤市長になる前は本当に数%しか男性育休を取っていなかったんですけども、今年は73%まで伸びています。父親が子育てに参加すると子どももちろん自尊心とかIQとか言語能力とか社会性とかそういった能力が向上しますし、夫婦の関係が良くなるし、熟年離婚が減少したり、働くモチベーションも上がってきます。職場でもやっぱりちゃんと会社が職員とその家族を大切にしているんだ、あるいは社員の帰属意識とモチベーションが向上したり、協力し合える風土になったり、業務が見える化したり、柔軟な対応ができるリーダーを育成できたりするので、実は一番男性育休というのが肝じゃないかなと思っています。

今年は育休を分割して取ったり、雇用保険で100%まで見るとか、いろんな改正もありましたから、今年はやっぱりすごいチャンスで、山形というのは日本一男性育休も進んで、男性も女性も働きやすいと、若者も働きやすいということで、若者がどんどん地域に残ってきて、優秀な人材が残ってくるという風土を作っていくかと思っております。今、そこのところが実は一番大事ですね。それが結果として皆さんの企業の成長にもつながるかなと思っています。

本当に今はいろんな働き方があって、100人100通りの働き方とか、最長6年間育児休暇がとれるんだとか、いろんな取り組みをしています。1人1人に応じた働き方をしていくことで優秀な人が集まってくるといことがすごくいいかなと思っています。例えばカーブが大好きな人はカーブ観戦の日は早めに退社とかオッケーです。副業もすればいいんじゃないかなとか、ということをやっています。そういうことをあまり硬く考えずに、柔軟かく考えて、1人1人と向き合いながら、やっぱり1人1人のリーダーシップ、あるいはキャリアを尊重しながらやっぱり向き合っていくということが一番大事かなと思っています。

先ほど申し上げた資生堂さんの一緒にやっている女性活躍の中で、東北電化工業の會津社長とお話していると、やっぱり會津社長のところも女性をちゃんと登用したい、採用したいということで、今まで工学部とかの人だけだったんですけども、あえて文系の子を採用しよう。文系の子を採用して、技術補助職で採って、就職してから技術を教えて、今は事務職だけじゃなくて現場でもやるというふうな女性を育てて、育休とか入る時には事務職になったりとか、そういう柔軟な転換をしたりとかしながら、すごく今女性の社員が増えているみたいです。それが結果としてほかの周りの人も働きやすくなって、いい人が集まってくる、それが業績につながっているんだという話をされていまして、やっぱりそこが一番大事かなと思っています。今いろいろと言いましたけれども、働きやすさということ言うと、今「ナイスサポート」というのもございまして、福利厚生も皆さんと一緒に山形市もできたらなと思っています。いずれにしても人も地域もダイヤモンドですから、ゼロか100かじゃなくて「やってみよう」という精神で、今日、最初の1歩を踏み出してもらえたらすごく嬉しいなと思っております。本当に皆さんと一緒に山形から良くしていきたいなと思っております。

本日出席 (8 / 21)	会員総数	出席会員数
	102名	58名